令和7年度近畿運輸局バリアフリー化推進功労者表彰

奨励賞
（連名受賞）

学校法人　京都文教学園　京都文教大学
（京都府宇治市槇島町千足８０番地）

宇治市
（京都府宇治市宇治琵琶３３番地）

受賞者の取組　市・大学の連携による心のバリアフリー推進

宇治市では、令和5年度よりハード整備に加え心のバリアフリー推進のため、今後、社会に出ていく大学生に対する心のバリアフリーの啓発を行うとともに、広く市民に広報するための手法等を検討するため、京都文教大学との連携事業の取組を継続して実施。

単なる市の出前講座としてではなく、大学の授業の一環として、バリアフリーに関する行政の取組を学ぶとともに、当事者の講話や疑似体験を通じて学生の気づきを促し、更に学生自らが心のバリアフリーを地域住民等へ啓発するなど、広がりのある取組となっている。

令和7年度以降は大学側の提案により、プロジェクト科目として後期に15 回の授業を協力して実施することが決まっており、更なる連携や取組の強化を予定している。

取組の流れ

Kyoto Bunkyo University
京都文教大学
宇治市

①事前学習

④ともフェス※出展
（地域への啓発）

※「ともいき（共生）フェスティバル」・・・大学主催のイベント。地域住民へ大学を開放し、子ども、高齢者、障害者や留学生等、様々な人々が集い、楽しみながら交流する場として2014年より開催している。

②体験学習

③まとめ・周知検討

聴覚障害当事者
による講話や交流

講　評

地方公共団体と大学が連携して取組を推進している点は評価できる。大学教育の中で障害当事者の参加をしっかりと位置づけており、事前学習や疑似体験を授業の中で取り入れ、イベントを契機に学生や市民に心のバリアフリーについて学ぶ機会を提供している点も良い。

今後は、取組の内容充実や継続的実施によって、新たな人材輩出がなされるなどの波及効果が一層生じていくことにも期待したい。